

留学生の輝ける街 八王子へ ~留学生の住みよい街づくり~

拓殖大学国際学部国際学科 福田ゼミナール

浅利亮太、川名崇之、進藤大希、高橋優花、戸塚沙椰、森田瞳、リチャード・パーキンス
指導教員 福田恵子

I. 目的

私達の大学には多くの留学生が在籍しており、ゼミナールなどで交流する機会も多い。彼らの中には生活費をアルバイト収入で賄っている者も多く、忙しい毎日を送っている。彼らのアルバイトの多くは語学力を活かせない、新聞配達やサービス業などの肉体労働である。彼らの日本語能力が上達し、さらに経済的に生活が安定するようなアルバイトがあれば、彼らの活躍が期待でき、さらに彼らが輝けるだろう。八王子市は現在1万人を超える外国人が居住し、約3300人の留学生が市内23大学等に在学する国際学園都市である。そして、八王子市は『八王子国際協会』という団体を設置し多文化共生社会の実現を目指している。2008年7月に設立された『八王子国際協会』は、八王子市と協働で、外国人市民の生活・コミュニケーション支援をはじめ、各種交流のイベントや様々な事業や生活全般にわたるサポートを行っている団体である。また、八王子市には高尾山をはじめとする観光地も多く、その外国人観光客を八王子市街地に呼び込むための工夫も行われている。

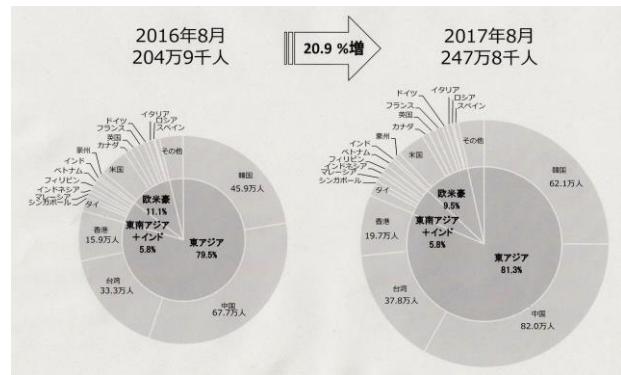
国際化を目指す八王子市がさらに発展していくには、留学生が多いという強みを生かすことが望まれるが、経済的に苦しい留学生にボランティアを行わせるには限界がある。そこで、昨年度提案した福田ゼミ2グループの提案を融合、さらに進化させ、留学生の語学力向上と八王子市のさらなる国際化、活性化が可能になる「留学生のアルバイト」を提案したい。

II. 現状・提案

1. 訪日外国人の増加

訪日外国人の数は東日本大震災のあった2011年から5年間で1,500万人以上増えた。日本政府観光局のデータによると、2015年に約1,900万人

であった訪日外国人が、2016年には約2,400万人と約22%増加した。多くはアジアからの訪日外国人であり、2,000万人以上が訪れている。特に中国や韓国は現在それぞれ500万人以上訪れており、留学生も増えている。



国名	留学生数(2015年→2016年)
中国	94,111→98,483人
ベトナム	38,882→53,807人
韓国	15,279→15,457人
台湾	7,314→8,330人
タイ	3,526→3,842人
マレーシア	2,594→2,734人
アメリカ	2,423→2,648人

(日本政府観光局 JNTO から引用)

最近はベトナムやタイなど東南アジアからの訪日者も増え、大学や専門学校に通う留学生も増えてきている。特に、ベトナムからの伸びには目を見張る。年々、多くの外国人が訪れる中で彼らが快適に過ごせる環境は整っているのだろうか。

2. 留学生の現状

留学生の現状を知るべく、現在のアルバイトの状況について同じゼミナールに所属する留学生にインタビューを行ったところ、全員がアルバイトをしており、飲食店やカラオケ店に勤めていた。アルバイトは週4~5回、平日は4~5時間、週末は

8時間、一日中働いている人もいた。仕事は滞りなくできているそうだが、国籍の壁があるためか、時給や仕事内容についての情報が入ってこない、時給が日本人より20~50円ほど安いなどの不満もあった。今後どのようなアルバイトがしたいか聞いたところ、自分の母国語や得意分野を活かせる仕事がしたいとのことだった。

3. 八王子の国際化と留学生のアルバイト創出

①日本語訳やネイティブチェック

実際に八王子市が掲載している観光サイト『はちなかび』の英語、中国語、韓国語版を留学生に読んでもらったところ、誤訳も多く、意味不明の文も多かった。また、最近増え続けているベトナム人観光客が必要とするベトナム語版がなかった。

もっと多くの外国人に閲覧してもらうには正しい訳が必要だ。留学生の力を活かし、このように日本語訳やネイティブチェックをしてもらうことはできないだろうか。

② 飲食店の国際化

2017年8月7日に八王子市街地周辺の言語環境について実地調査（ファミレス：4店舗 ファーストフード：4店舗 雑貨店：2店舗 公共機関3箇所 その他：2箇所）を行ったところ、言語表記がしっかりと行われていた店舗は極めて少なく、特に自営業の店ではほとんど見かけることはなく、全国展開しているチェーン店においては社の方針として行われているにすぎない。ファミレスなどでは英語は書いてあるものの、デザイン的な意味で使われているものが多く、観光客等に配慮しているとはいえない。雑貨店も同様である。ファーストフード店の多くはメニューに写真を多く使っており、店頭で注文する際に指差しでの注文をお願いしているようだった。また、言語変換機能がついている自動券売機を使っている店舗もあったが、温かさに欠ける。公共機関では英語表記こそあったが、表記のみで対人での対応は本部に電話するしかないらしい。しかし、店舗内の全ての表記を言語別に表記したり、表記されているプレートを用意するのは時間と費用がかかる。そこで、八王子市が留学生をアルバイトとして採用するように

各店舗に働きかけてはどうだろうか。日本語を完璧に話せないという否定的な点ではなく、母語を完璧に話せるという肯定的な点を活かせば店舗と客の優秀な仲介役となると考える。また、八王子を通し留学生を採用した店舗には、八王子市から各言語に対応しているという証明のステッカーを配布する。訪日外国人に「ステッカーがある店舗なら安心して利用できること」がわかれば、彼らも八王子に来やすいだろうし、そのような情報はSNSで即座に拡散する。

III. 方法

留学生のアルバイトを募集する方法として、バイトアプリで有名な「タウンワーク」を参考に「八王子市の外国人向けバイトアプリ」を作成する。これは八王子市内に在住する、外国人・留学生向けに特化したもので、主にネイティブチェックや飲食店での語学を生かした仕事を見つけることができるアプリであるが、質の良い留学生を確保するために、八王子市が仲介を行う。

【留学生への周知方法】

「Twitter」「Facebook」などSNSを利用して拡散。八王子の各大学にポスターや広告を配布する。

【留学生の登録条件・リストアップ】

登録希望者はN2（日本語能力試験2級）以上の証明書などを持参し、八王子市役所で面接。八王子市は留学生の国籍、性別、年齢、検定級を記載した「登録名簿」（氏名は記載せず）を作成し各アルバイト先からの閲覧、アクセスを可能にする。

IV. まとめ

八王子市には多くの留学生が住んでおり、外国人観光客も年々増えている。これらの現状を踏まえて、私たちは「八王子市」にとっても「留学生・外国人」にとっても相互にプラスになるアルバイトを提案した。メリットは、①留学生の学習意欲向上②八王子市の言語表記の曖昧さの解決③八王子市在住の留学生・外国人の雇用創出である。八王子市が眞の国際都市になるには、留学生が輝いている街を目指すことが必要なのではないか。

V. 参考文献

八王子国際協会 <http://hia855.com/> 他